

平成27年度
「ほっかいどう遺産WAON」
助成活動報告



平成28年4月28日
NPO法人北海道遺産協議会

平成27年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計17件600万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	雨竜沼湿原	雨竜町	雨竜町観光協会(代表申請)雨竜町	町内にある北海道遺産「雨竜沼湿原」登山会及びPR活動	350,000
2	姥神大神宮渡御祭と江差追分	江差町	豊榮山保存会	豊榮山半纏作成	400,000
3	ピアノ記念館	北見市	特定非営利活動法人ピアノ会	写真集「ピアノン夫妻の足跡」&「中国語の音声ガイド」 二階の「ピアノン夫妻を巡る人々」の新設。	350,000
4	流水とガリンコ号	紋別市	オホーツク・ガリンコタワー株式会社	流水観光	400,000
5	空知の炭鉱関連施設と生活文化	空知地域	赤平コミュニティガイドクラブ TANTan	TANTanまつり2015～炭鉱灯(やまあかり)～	300,000
6	上ノ国の中世の館	上ノ国町	上ノ国町教育委員会	勝山館跡歴史の道活性化プロジェクト	380,000
7	北海道の馬文化(ばん馬)	北海道各地	北海道和種馬保存協会	どさんこフォーラム開催事業	250,000
8	苗穂地区の工場・記念館群	札幌市	サッポロビール株式会社、雪印メグミルク株式会社、福山醸造株式会社	身近に感じる北海道遺産ツアー ～苗穂地区を巡り遺産に触れ、遺産関係者との交流を深める～	300,000
9	小樽みなとと防波堤	小樽市	小樽港北防波堤の歴史を学ぶ実行委員会(仮称) ※協力:㈱ファウンド	小樽北防波堤の歴史を学ぶ	400,000
10	北海道遺産30件(稚内港北防波堤ドームなど)	北海道各地	パノ鉄本舗、(株)福本工業	北海道遺産パノラマVR撮影・制作・サイト公開	300,000
11	サケの文化	石狩市	石狩市	ミラノ万博における郷土料理をはじめとした「サケの文化」プロモーション事業	400,000
12	石狩川(石狩川水系含む)、天塩川	流域市町村	石狩川下覧権(いしかりがわくだらんかい)	石狩川下覧権20周年・石狩川・天塩川交流体験	400,000
13	函館山と砲台跡、函館西部地区の街並み、他	函館市	函館湾岸価値創造プロジェクトチーム(代表:布村 重樹)	函館湾岸コンクリート物語	300,000
14	野付半島と打瀬舟	別海町	別海町	観光振興事業	350,000
15	積丹半島と神威岬	積丹町	積丹町自然環境保全協議会	黄金岬案内看板設置事業(外国語対応)	400,000
16	北海道の馬文化(どさんこ)	滝川市	えべおつ馬倶楽部	どさんこ馬によるまちおこし	350,000
17	北海道登別温泉地獄谷	登別市	登別市	北海道登別温泉地獄谷薬師如来像木階段修繕	370,000

1.町内にある北海道遺産「雨竜沼湿原」登山会及びPR及び活動

- 実施主体：雨竜町観光協会（雨竜町）
- 実施団体URL：<http://www.uryunuma.info/>（雨竜沼観光協会website）
- 助成額：350,000円

一活動内容一

①「北海道遺産選定11周年・ラムサール条約登録10周年」を迎え、町内に北海道遺産の選定を受けている素晴らしい自然「雨竜沼湿原」があることを再確認してもらう目的で、9月12日（土）に雨竜沼湿原登山会を開催しました。当日は雨でしたが参加した皆さんは秋の雨竜沼を堪能して頂けたと思います。報告書を観光協会ホームページに掲載し、町広報「10月号」にも取り上げて頂きました。

② 町内外に雨竜沼湿原をPRするため、移動式のPR用資材を購入し、9月21日・22日開催の「中空知大収穫祭」の雨竜町のブース前に雨竜沼の観光PRポスターを掲示しました。

今後、町内外イベント等に参加するときには、PR資材により北海道遺産「雨竜沼湿原」をより多くの方に知って頂けるようPRしていきたいと思ひます。



遺産の名称：
「雨竜沼湿原」
（雨竜町）



増毛山地の標高850mにあり、北海道の山地湿原の中ではもっとも大きな高層湿原。大小様々な地塘（ちとう）が700以上あり、独特の景観を見せる。湿原植物も豊富で、昭和39年に道指定天然記念物、平成2年に暑寒別・天売・焼尻国立公園特別保護地区に指定された。「雨竜沼湿原を愛する会」による活動は、湿原を未来に伝える大切さと難しさを教えてくれる。

2. 豊榮山半纏作成

- 実施主体：豊榮山保存会（江差町）
- 実施団体参考URL：<http://www.hokkaido-esashi.jp/>（江差町HP）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

・道南江差町で毎年8月9日～11日に開催される、姥神大神宮渡御祭は、各町内で保存する山車13台が神輿に供奉し、子供から大人までが山車を曳き町中を練り歩くお祭りです。豊榮山は、その13台の中の1台で、江差町字豊川町の豊榮山保存会で管理しています。近年、各町内（山車）ごとに祭り半纏を統一し、山車曳き回しに参加している状況ですが、半纏を購入してまで祭りに参加はしない、半纏の貸し出しがあれば等の要望が毎年ありました。そこで、数年前に若衆が作成した刺し子半纏のデザインを豊榮山の半纏デザインとして統一し新たに50枚作成し、今まで参加できなかった町民や、現在バラバラの半纏で参加している町民に貸し出しすることにより、衣装の統一が図られ、より多くの町民が祭りに参加できる環境を創出し、姥神大神宮渡御祭を通じて地域コミュニティの構築を図っていきます。

・平成27年の姥神大神宮渡御祭は8月9日～11日の3日間で終了しました。今回の助成決定が、祭り終了後だったため、今年度のお祭りには間に合わなかったが、終了後、子ども用、大人用の半纏（S15着、M19着、L12着）を46着作成しました。なお、来年よりそれぞれ貸し出し用として使用いたします。



遺産の名称：
「姥神大神宮渡御祭と
江差追分」（江差町）



姥神大神宮渡御祭の起源は370年前にさかのぼる。その年のニシンの豊漁に感謝を込めて行われたお祭りで、現在も毎年8月9日～11日にまちは祭り一色となる。13台の山車（やま）が祇園囃子の調べにのって町内を練り歩くさまは圧巻。江差追分は中山道の馬子唄ルーツに、北国の厳しい風土にもまれながら多くの先達に唄い継がれてきた。日本国内だけでなく、海外にも多くの愛好者を持つ。はるか遠い江差のニシン景気を今に伝える。

3. 写真集「ピアソン夫妻の足跡」&「中国語の音声ガイド」、**「ピアソン夫妻を巡る人々」**の展示新設

- 実施主体：ピアソン記念館（北見市）
- 実施団体URL：<http://www.npo-pierson.org/>（NPO法人ピアソン会HP）
- 助成額：350,000円

—活動内容—

・昨年は、1914年に建設されたピアソン邸が満100年を迎えたことで、100年の歴史を振り返り各種の企画を展開したが、その中で、ピアソン夫妻の業績を写真で紹介する写真集の出版が未完でありそれを本年に実施したい。また、音声ガイドが好評なことから、本年中国語（台湾を含む）の音声案内を実施したい。また、二階展示室に「ピアソン夫妻を巡る人々」のコーナーを新設し、新渡戸稲造、内村鑑三、河井道、サラ・スミス、など約25名の人々の紹介コーナーを新設する。



遺産の名称：
「ピアソン記念館」
（北見市）



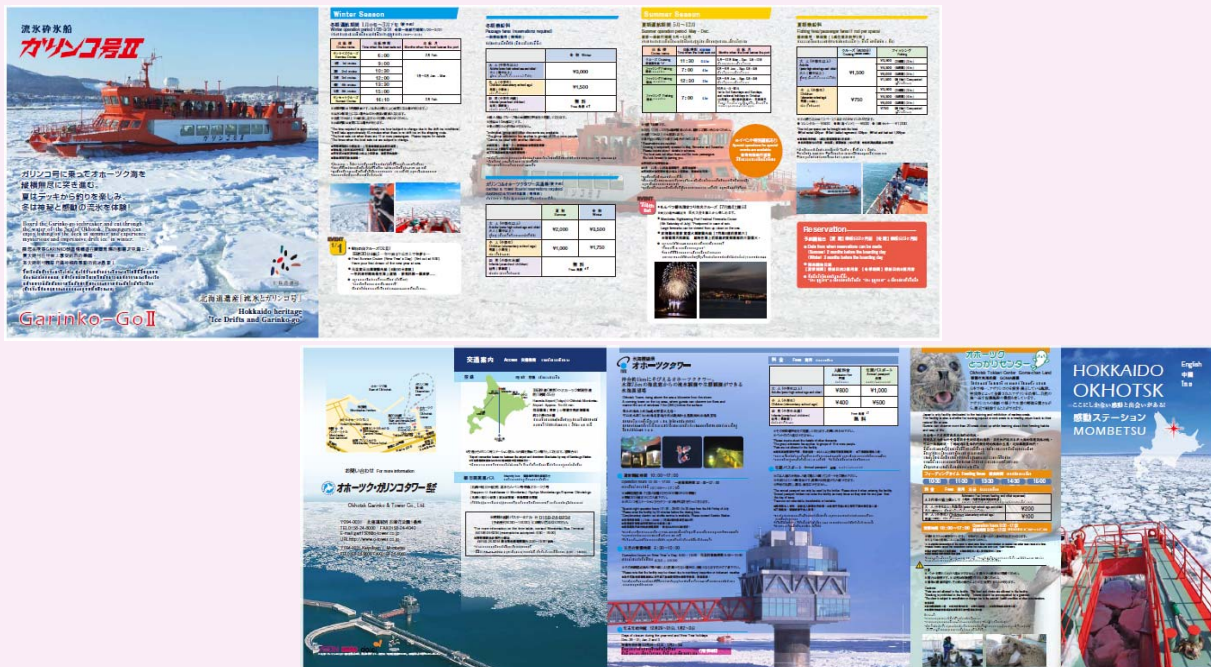
アメリカ人宣教師G.P.ピアソン夫妻の私邸として大正3年に建てられた。夫妻は道内各地を伝道し、その終着に選んだ地がアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛（現在の北見）。廃娯運動や慈善活動など、夫妻の志は今も北見の精神文化のよりどころとして多くの市民に親しまれている。設計者は近江兄弟社創設者としても知られているW.M.ヴォーリス。

4. 流氷観光

- 実施主体：オホーツク・ガリンコタワー株式会社
- 実施団体URL：<http://www.o-tower.co.jp/>
(オホーツク・ガリンコタワー株式会社HP)
- 助成額：400,000円

一活動内容一

・北海道遺産に選定されている「流氷とガリンコ号」に関する多言語リーフレットを作成し、国内外旅行者の集客宣伝活動を行う。



遺産の名称：
「流氷とガリンコ号」
(紋別市など)



冬のオホーツク沿岸に押し寄せ
る海の邪魔者を逆手に取った流氷
観光。紋別市ではアラスカの油田
開発用に試験的に作られた砕氷船
を「ガリンコ号」と名付け、流氷の
海へ乗り出した。沖合約500mのオ
ホーツクタワーでは、海底7.5mか
ら流氷観察や流氷下のさまざまな
生態の観測ができる。流氷の神秘
や流氷がもたらす恵みなど、その
大切さを訴え、紋別市は流氷研究
国際都市を宣言している。

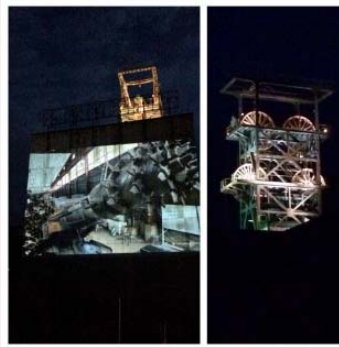
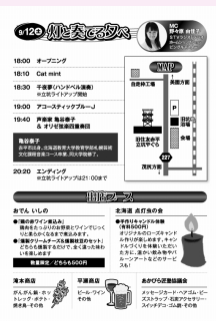
5. TANTanまつり2015～炭鉱灯(やまあかり)～

- 実施主体：赤平コミュニティガイドクラブTANTan（赤平市）
- 実施団体URL：<https://ja-jp.facebook.com/zuriyama>
（赤平コミュニティガイドクラブTANTan facebookページ）
- 助成額：300,000円

ー活動内容ー

・平成17年、元炭鉱マンを中心に市内外の有志により結成。旧住友赤平炭鉱立坑と自走榨工場のガイドツアーや市内の炭鉱遺産を巡るフットパスなどを継続して開催している団体です。活動の集大成として5年前より「TANTanまつり」と称し立坑ライトアップや炭鉱遺産アートの催しを行い、炭鉱遺産を活用したまちづくり活動として行っております。本年も、住友赤平炭鉱立坑前に特設ステージを作り、立坑見学会や自走榨工場公開、夜には立坑ライトアップ、「あかびらのうた」演奏などの音楽や映像投影、また「ガンガン鍋」の販売やキャンドルを使った催しを行いました。

・9月12、13日開催両日で入場者数 延べ500人以上の来場があり、市内はもとより道内各地から来て頂いた方々に、赤平のそして空知の魅力を感じてもらえたと思います。炭鉱遺産を会場として活用することで、多くの人にこの地域の歴史や文化を見直してもらう事に繋がり、あかびらの歌合唱を通じて、子供たちにふるさとの誇りを持ってもらい、アートイベントを行う事で新たな地域資源の活用法を提案できた事が大きな成果だったと思います。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

6. 勝山館跡歴史の道活性化プロジェクト

- 実施主体：上ノ国町教育委員会（上ノ国町）
- 実施団体URL：<http://www.town.kaminokuni.lg.jp/>（上ノ国町HP）
- 助成額：380,000円

—活動内容—

・勝山館跡の散策路は、室町時代に松前藩祖とされる武田信廣や江戸時代に松前藩主が往来した道として歴史的にも大変貴重であり、現在も散策路として利用されています。

今回の活動では、勝山館跡の散策路をより魅力的なものにするため、既存の休憩施設（四阿）を修理して来訪者の方々が快適に「北海道遺産」を楽しんでもらうことを目的としております。

・施工後には、地元で活躍する上ノ国観光ガイド協会が主催で勝山館跡見学イベントが開催されました。イベントでは参加者が四阿を利用して、手作りスイーツや自生するクロモジ茶を楽しみました。



遺産の名称：
「上ノ国の中世の館
（たて）」（上ノ国町）



史跡上之国館跡の一つである上ノ国町の夷王山中腹に広がる山城「勝山館」跡。松前藩の祖とされる武田信廣が1470年頃に天の川左岸の中心部で標高100メートルの丘陵に築かれた館跡で、16世紀にかけて機能し軍事・政治・北方貿易の拠点とされていた。発掘調査では数多くの住居や出土遺物のほか、アイヌが使用した骨角器や和人墓と隣接したアイヌ墓が見つかったことから、和人とアイヌの混住説が唱えられている。また、史跡指定地内に建てられた「勝山館跡ガイダンス施設」では、出土品や復元された館の模型及び墓のレプリカを見学することができる。

7. どさんこフォーラム開催事業

- 実施主体：北海道和種馬保存協会（札幌市）
- 実施団体URL：<http://horsetrekking-hokkaido.com/>
（ホーストレッキング北海道HP）
- 助成額：250,000円

一活動内容一

・北海道遺産でもある北海道和種馬について、誤解が多い現状があり、また、北海道内における飼養頭数についても減少の傾向にあるなど課題となっております。

さらには、多くの北海道和種馬が持っている世界的にも貴重な特性である特殊な歩様の「側対歩」について、一般的にはあまり知られていない実情があります。

多くの一般市民の皆様の理解を得、保存と活用に対し積極的な応援意識を醸成して、北海道和種馬生産・保存・活用活動のバックアップ力とさせていただく必要があるものと考えられます。ついては、下記により北海道和種馬の特徴展示並びに講演会等を開催し広く北海道和種馬をPRしようとするものです。

1. 講演会 どさんこ馬のお話（主として子ども対象）
馬文化・馬具とどさんこ～人は馬具を使って馬と共働する～（高校生以上対象）
2. 北海道和種馬の特徴展示「じみち美人コンテスト」～側対歩の美しさを競う～
3. 曳き馬による体験乗馬（一般対象・大人も可）
4. 開催場所：札幌競馬場



遺産の名称：

「北海道の馬文化
（ばん馬、日高のサラブレッドなど）」
（北海道各地）



北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦労をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、現在は帯広市のみで開催されている。また、速さを求めてはサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。

8. 身近に感じる北海道遺産ツアー～苗穂地区を巡り遺産に触れ、遺産関係者との交流を深める～

- 実施主体：サッポロビール株式会社、
雪印メグミルク株式会社、福山醸造株式会社
- 実施団体URL：http://www.sapporobeer.jp/brewery/s_museum/
(サッポロビール博物館HP)
- 助成額：300,000円

一活動内容一

・北海道遺産を身近に感じていただけるように、苗穂地区を巡る見学ツアーを実施しました。イオン北海道・マックスバリュ北海道店舗及びチラシにて告知するクローズド懸賞の賞品とし、15組30名を無料招待。ツアーは、福山醸造醤油工場・雪印メグミルク酪農と乳の歴史館・サッポロビール博物館をまわり、昼食には北海道遺産でもあるジンギスカンを食べました。さらに、ツアーに北海道遺産関係者にも帯同いただき、参加者との交流を深めると共に、他の北海道遺産の魅力も語っていただきました。

遺産の名称：
「札幌苗穂地区の工場・
記念館群」（札幌市）



札幌市の創成川以東は、豊平川の伏流水や貨物輸送の利便性などによって明治期から「産業のまち」として栄え、今も福山醸造をはじめ、さまざまな工場や倉庫がひしめき、下町的な雰囲気を残している。苗穂駅近隣にある北海道鉄道技術館、サッポロビール博物館、酪農と乳の歴史館は内容も充実し、北海道の産業史を知る上でも貴重な記念館群を形成している。



9. 小樽港北防波堤の歴史を学ぶ

- 実施主体：小樽港北防波堤の歴史を学ぶ実行委員会
(小樽市・協力：株式会社ファウンド)
- 実施団体URL：<https://www.city.otaru.lg.jp/> (小樽市HP)
<http://found-inc.jp/place/> (株式会社ファウンドHP)
- 助成額：400,000円

ー活動内容ー

・廣井勇氏の人物像をテーマとした講義を聴き、旧日本郵船株式会社と北防波堤の見学を行う半日の活動プログラムです。前段の講義の講師を務めた小樽市総合博物館館長の石川氏は、廣井氏の人形やイラストを用いた資料を使い、参加する子どもたちが飽きない工夫を随所に取り入れて講義を進めました。旧日本郵船株式会社の見学では、おたる案内人マイスターの岩崎氏より、当時の文化や歴史などを掘り下げて子どもたちに伝えました。当時の建物が軟石で造られているなど、面白いお話をたくさん聴くことができました。クルーズ船に乗って北防波堤から南防波堤を見学した際は、防波堤の近くを航行し、間近で観察することができました。



遺産の名称：
「小樽みなとと防波堤」
(小樽市)



「港湾工学の父」廣井勇により建設された北防波堤は、セイロン（現スリランカ）のコロンボ港防波堤を参考にし、独特の傾斜ブロック工法を採用した日本初の外洋防波堤。ケーソン工法を取り入れた島防波堤とともに、今も現役で機能している。防波堤に守られた小樽のみなとは北海道移住の玄関口となり、また物流拠点、貿易港として、商都・小樽の繁栄を支えている。

10. 北海道遺産パノラマVR撮影・制作・サイト公開

- 実施主体：パノ鉄本舗、(株)福本工業
- 実施団体URL：<http://www.coi-coi.com/> (株)coicoi HP)
- 助成額：300,000円

—活動内容—

・「北海道遺産」に認定されている52件の内、平成28年3月中に撮影可能な30件を選定し、360度全球パノラマVRの撮影及び制作を行いました。完成したパノラマコンテンツは特設ウェブサイトにて掲載（公開）しております。貴重な「北海道遺産」を後世に残すことを目的としておりますので、貴会ホームページからのリンクやパンフレット等からスマホ・タブレットで閲覧出来るようにご利用していただきたいと考えております。



遺産の名称：

「福山（松前）城と寺町」
（松前町）



江戸時代の日本で最後に築城された城郭で、箱館戦争では旧幕府軍と官軍の戦場となった。城の北側には道内唯一の近世的な寺町があり、龍雲院、法源寺、法幢寺など5つの寺や松前藩主松前家墓所が現存している。また、城と寺町の一帯は北海道でもっとも早く見ごろとなる桜の名所でもある。松前町の歴史を知ることは開拓以前の北海道の歴史を理解する上で重要。

11. ミラノ万博における郷土料理をはじめとした「サケの文化」プロモーション事業

- 実施主体：石狩市
- 実施団体URL：<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/>（石狩市HP）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

【活動概要】

- ・2015年ミラノ国際博覧会（ミラノ万博）の「北海道の日（10月6日～8日）」において「サケの文化」のPR活動を行いました。

【活動詳細】

<10月6日>

- ・ミラノ万博会場内「日本館」におけるステージイベント：石狩鍋クッキングショーの前段で「石狩鍋」の紹介等を行うとともに、来場者に英語版のノベルティ（「石狩鍋の作り方」、「チャンチャン焼きの作り方」）を配布し、「サケの文化」をPR。

<10月6日～8日>

- ・レストランCascina Cuccangaの中庭において開催された「Hokkaido Fair in Milano」で、「石狩鍋」及び「鮭のチャンチャン焼き」を試食提供するとともに、来場者に英語版のノベルティ（「石狩鍋の作り方」、「チャンチャン焼きの作り方」）を配布するなど、「サケの文化」をPR。



遺産の名称：

「石狩川」（流域市町村）



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。

12.石狩川下覧櫂20周年・石狩川・天塩川交流体験

- 実施主体：石狩川下覧櫂（いしかりがわくだらんかい）（奈井江町）
- 実施団体URL：（※石狩川下覧櫂Facebookページあり）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

・7月11日（土）に開催した川下りは絶好のコンディションに恵まれました。出発地点は雨竜町と、滝川市江部乙町を結ぶ、江竜橋の下流、右岸側雨竜川からのスタートです。参加者は滝川の小学1年生から地元砂川中学校の中学2年生女子2名を含む18名、出艇数にして7艇の参加となりました。

・会の発足20周年を記念して9月26日（土）～9月27日（日）に天塩川体験バスツアーを行いました。この企画の目的は子ども、親子を対象に北海道遺産である石狩川と天塩川との継続的な交流を目的に、流域周辺地域の施設見学をしながら見識を深めるため、バスツアーを企画しました。参加者は、砂川と岩見沢から中学生7名、小学生3名の子供10名、大人9名の合計19名の参加となりました。砂川遊水地を出発して、およそ2時間で最初の目的地『道の駅にしん番屋』に到着しました。にしん番屋では昼食後、併設されている「歴史文化保存展示ホール」にて、地元の方の案内で小平町の歴史やニシン漁の漁具、当時の生活用品などを見学しました。



遺産の名称：
「天塩川」
（流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

13. 函館湾岸コンクリート物語

- 実施主体：函館湾岸価値創造プロジェクトチーム（函館市）
- 実施団体参考URL：<http://www.cpi-j-hokkaido.jp/seminarreport20151128.pdf>
（公益社団法人日本都市計画学会北海道支部平成27年度都市地域セミナー「函館湾岸コンクリート物語」開催報告書PDF）
- 助成額：300,000円

—活動内容—

・北海道遺産に認定されている函館山と砲台跡や函館西部地区の街並みをはじめ、函館を語るストーリーは数多い。それらをつなぎ、北海道あるいは日本・世界にとっての函館の価値を語るストーリーとして、コンクリートに関する物語がある。しかし、その価値説明には、建築・土木分野のみならず、港町、産業、鉱業、交通、水、暮らしなどの様々な観点の統合化が必要である。そこで本活動において、関連する活動団体の成果、および古絵図・古地図・古写真・古文書等の史資料分析および現地踏査により、『函館湾岸コンクリート物語』として統合した冊子（約100頁）作成する。



遺産の名称：

「函館西部地区の街並み」
（函館市）



函館は安政6年、横浜、長崎とともに最初に開港し、近代日本の幕開けを告げた町であり、西欧文化に開かれた玄関口として栄えてきた。函館西部地区には、埠頭倉庫群、函館どつく（函館ドック）のような歴史的港湾施設、旧函館区公会堂やハリストス正教会復活聖堂に代表されるハイカラな洋風建築とともに、和洋をたくみに交えてデザインされた商家や住宅が建ち並ぶ。

14. 観光振興事業

- 実施主体：別海町
- 実施団体URL：<http://betsukai-kanko.jp/>（別海町観光協会HP）
- 助成額：350,000円

—活動内容—

・野付半島にはトドワラやナラワラのような奇観や原生花園などの原始的な自然が多く残っており、また、日本で確認されている野鳥の約40%にあたる235種が確認されています。その豊かさからラムサール条約、東アジア・オーストラリアフライウェイパートナーシップ加盟、北海道遺産に登録され、別海町の重要な観光資源の一つとなっております。この野付半島の魅力を広く周知、また更なる観光振興へと促すため、別海町への来訪を検討されている方や、一度来ていただいた方に対しても再訪を考えていただけるような、きめ細やかで野付半島の魅力を知っていただくリーフレットを作成したいと考えております。

遺産の名称：

「野付半島と打瀬舟」
(別海町、標津町)



全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

15. 黄金岬案内看板設置事業(外国語対応)

- 実施主体：積丹町自然環境保全協議会（積丹町）
- 実施団体URL：<http://town-shakotan.com/>（積丹町HP）
- 助成額：400,000円

—活動内容—

・積丹町は積丹半島の先端に位置し、神威岬を有する他、ニセコ・積丹・小樽海岸国立公園や道内唯一の海域公園にも指定されています。

積丹町の国立公園区域には、神威岬、積丹岬、黄金岬と3つの岬がありながらも、黄金岬の知名度についてはまだ低いものであり、多くの来町者に海域公園にも指定されている区域でもある黄金岬を広くPRし、誘導するためのツールとして案内看板を設置した。



遺産の名称：
「積丹半島と神威岬」
（積丹半島）



積丹半島開発の歴史は古く、ニシン漁の旧大漁場として発達しました。切り立った断崖とシャコタンブルーと形容される神威岬の海岸美は絶景。貴重な自然と産業の古い歴史に加え、明治から昭和初期に栄えた旧ニシン場の遺構として番屋、揚場跡、袋澗、トンネル、旧街道などが保存されている。神威岬の全面禁煙など景観を保護する活動も始まっている。

16. どさんこ馬によるまちおこし

- 実施主体：えべおつ馬倶楽部（滝川市）
- 実施団体参考URL：<http://www.city.takikawa.hokkaido.jp/>（滝川市HP）
- 助成額：350,000円

一活動内容一

・当団体は、市内の若草友の会（軽度障害者支援団体）やほほえみ工房（知的障害者通所授産施設）等と連携し、障害のある人々が地域の中で共に生きる楽しさや体験を広げる活動に取り組んでいます。

そこで、滝川市丸加高原の自然と丘陵地の景観を生かし、どさんこ馬と障がいや難病を持つ子どもたちとの触れ合い（どさんこ馬の世話や乗馬等）を通して、どさんこ馬が持つアニマルセラピーを体験し、認識する中で、地域での「どさんこ馬」と共に生活する地域環境の整備を推進し、もって江部乙地区が目指している美しい村づくり運動の具体的な取り組みとして、北海道遺産（どさんこ馬）を活用したまちづくりを推進したいと考えています。

*今年も、大阪市から障害のある子どもたちが、どさんこ馬との触れ合いのために滝川市に来られます。どさんこ馬との触れ合いを通して障害や難病と闘う子供たちとその家族をサポートしていきたいと考えています。

《体験イベント》

- 道産子馬と乗馬・農作業体験 期日：10月2日間
- クリスマス道産子馬とサンタクロースの馬そり体験 12月1日間
- たきかわ冬まつりでの道産子馬の乗馬体験 2月 2日間 （合計 5日間）



風と遊ぼう！秋祭り
in 丸加高原
10月17日(土)18日(日)
10:00~13:00 小雨決行！
乗馬と乗合馬車7区間回遊
料金は大人一人500円
同時開催
餅つき・お人形・お汁粉販売(お持ち帰り可)
馬車と乗合馬車の乗車体験も好評です！
乗馬体験は、お申し込みが必要です。お申し込みは、<http://www.city.takikawa.hokkaido.jp/>
お問い合わせは、0157-22-1111(平日9時~18時) 0157-22-1111



遺産の名称：

「北海道の馬文化
(ばん馬、日高のサラブレッドなど)」
(北海道各地)



北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦勞をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、現在は帯広市のみで開催されている。また、速さを求めてはサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。

17. 北海道登別温泉地獄谷薬師如来像木階段修繕

- 実施主体：登別市
- 実施団体URL：<http://www.city.noboribetsu.lg.jp/>（登別市HP）
- 助成額：370,000円

一活動内容一

・北海道遺産登別温泉地獄谷は、登別温泉最大の源泉であると共に、登別市最大の自然景勝地として年間約95万人の観光客の方が訪れる人気の観光スポットとなっている。地獄谷周辺には自然散策を楽しむことができる遊歩道が整備されており、国内外問わず多くの観光客が遊歩道を利用している。

こうした状況の中、特に観光客の利用が多い「地獄谷遊歩道」の中で人気の観光スポットとなっている薬師如来像の木階段部分の老朽化が進行し、観光客の散策に支障を及ぼしかねない状況にあることから観光客の方々に安心・安全にご利用いただけるよう修繕を行うこととしたい。



遺産の名称：
「登別温泉地獄谷」
（登別市）



地獄谷は北海道を代表する温泉地・登別温泉最大の源泉です。直径450mの谷底には大地獄を中心に15の地獄があり、毎分3,000Lが湧き出している。登別温泉は「温泉のデパート」と形容され、多泉質が湧き出しており、これは世界的にも珍しい。地獄谷の周辺には表面温度が40～50度になる大湯沼、頂きから白煙が立ち上り、高山植物の名所としても知られる日和山、登別原始林などが広がる。